

2024年度（令和6年度）における 大江町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の実施状況について

本町では、令和7年3月に「大江町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」（計画期間：令和7～12年度）を策定し、自らの事務事業に伴い排出される温室効果ガスの削減に取り組んでいます。その実施状況についてお知らせします。

◇2024年度（令和6年度）の「電気」の使用による温室効果ガス排出量の算定に係る事業者別排出係数については、電気事業者による温室効果ガス削減の取組みを反映した「調整後排出係数」※を用いています。

※「電気」の使用による温室効果ガス排出量の算定に係る事業者別排出係数（1kWhあたりの温室効果ガス排出量）について、2013年度（平成25年度：基準年度）及び2023年度（令和5年度）では従来の「基礎排出係数」（未調整排出係数）を用いていますが、国のマニュアルが変更されたことに伴い、今回の2024年度（令和6年度）の算定から「調整後排出係数」を用いているため、年度間の比較については参考値となります。

なお、「調整後排出係数」は電気事業者による温室効果ガス削減の取組みを反映した数値であることから、従来の「基礎排出係数」（未調整排出係数）よりも小さい値となり、同じ電力使用量でも「調整後排出係数」を用いて算定した温室効果ガス排出量のほうが少なくなります。

【地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル（算定手法編）P14より抜粋】



図 3-4 令和7年度以降の電気排出係数の算定方法

表 3-4 都市ガス・電気・熱の排出係数の名称

| 排出係数の名称 | 令和6年度まで | | | 令和7年度以降 | | |
|------------------|---------|----|---|---------|----|---|
| | 都市ガス | 電気 | 熱 | 都市ガス | 電気 | 熱 |
| 基礎排出係数 | ○ | ○ | ○ | ○ | ※ | — |
| 基礎排出係数（非化石電源調整済） | — | — | — | — | ○ | ○ |
| 調整後排出係数 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

※「未調整排出係数」として公表されるが、需要家は原則使用しない

1. 温室効果ガス排出状況

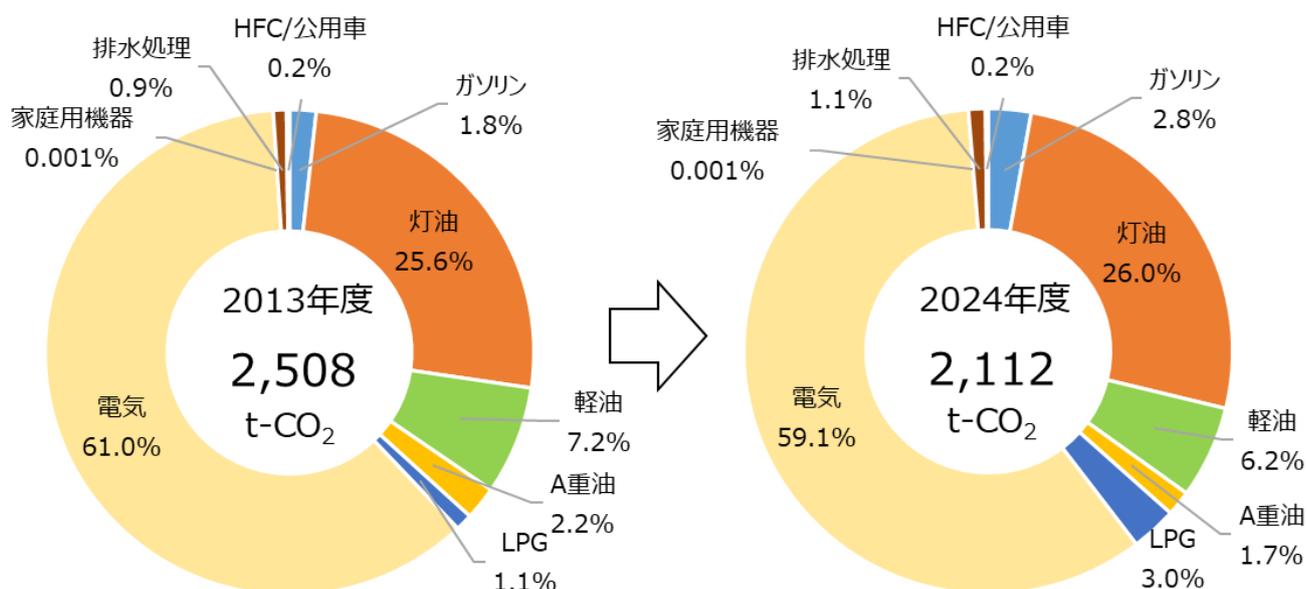
本町の事務事業に伴う 2024 年度（令和 6 年度）の温室効果ガス排出量は、2,112 t-CO₂となっており、2013 年度（平成 25 年度：基準年度）と比較すると、396 t-CO₂の減となりました。

また、温室効果ガス排出量を活動項目別にみると、電気の割合が 59.1%と最も高く、次いで灯油 26.0%、3 番目に軽油 6.3%となっており、2013 年度と同じ順位となっています。

総CO₂排出量（2013年度（基準年度）との比較）

| 活動項目 | | 2013年度 (基準年度) | | 2024年度 | | 差 (参考値) t-CO ₂ |
|------------|------|-------------------|-------|-------------------|-------|---------------------------------|
| | | t-CO ₂ | % | t-CO ₂ | % | |
| 燃料の 使用 | ガソリン | 44 | 1.8 | 60 | 2.8 | 16 |
| | 灯油 | 642 | 25.6 | 548 | 26.0 | ▲ 93 |
| | 軽油 | 181 | 7.2 | 130 | 6.2 | ▲ 51 |
| | A重油 | 56 | 2.2 | 35 | 1.7 | ▲ 20 |
| | LPG | 28 | 1.1 | 64 | 3.0 | 36 |
| 電気の使用 | | 1,530 | 61.0 | 1,248 | 59.1 | ▲ 283 |
| 家庭用機器の使用 | | 0.03 | 0.001 | 0.03 | 0.001 | ▲ 0.002 |
| 排水処理/下水の処理 | | 22 | 0.9 | 24 | 1.1 | 2 |
| HFC/公用車 | | 5 | 0.2 | 4 | 0.2 | ▲ 1 |
| 合計 | | 2,508 | 100.0 | 2,112 | 100.0 | ▲ 396 |

※表示単位未満を四捨五入しているため、計算結果が表中の値と一致しない場合があります。

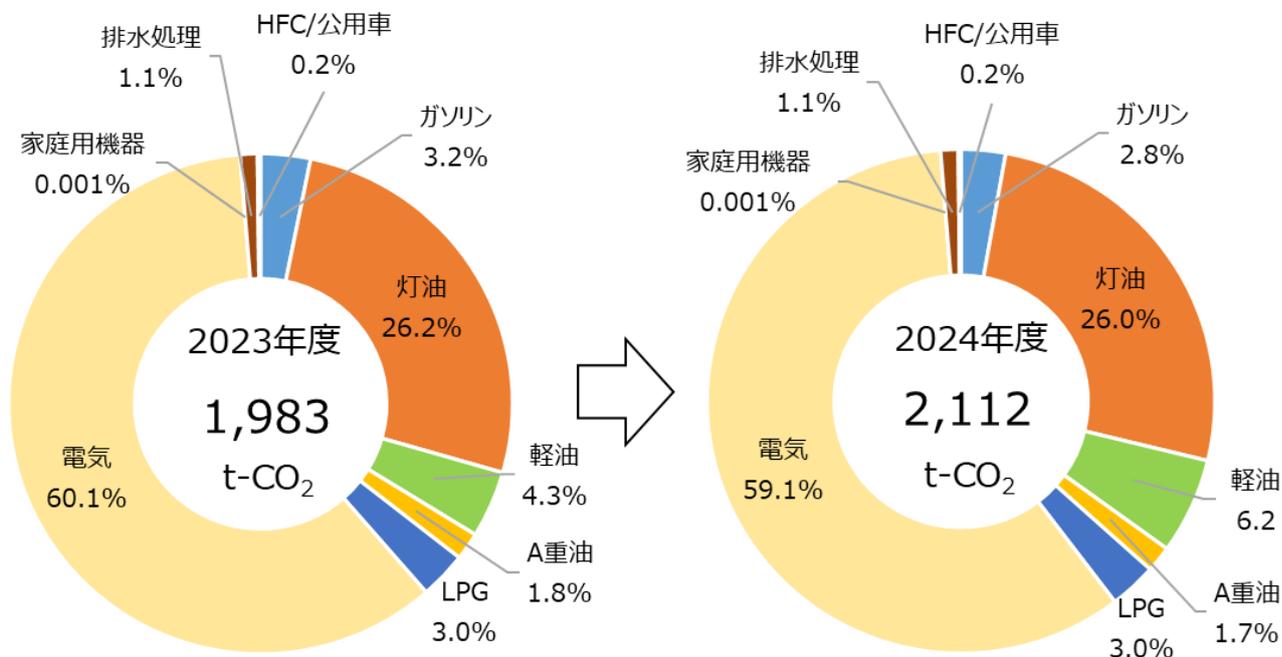


2023年度（前年度）との比較では、129 t-CO₂の増となりました。これは、大雪により除雪機械や暖房器具の稼働が増えたことによる燃料使用量の増加等が理由と考えられます。

総CO₂排出量（前年度との比較）

| 活動項目 | | 2023年度 | | 2024年度 | | 差 (参考値) t-CO ₂ |
|------------|------|-------------------|-------|-------------------|-------|---------------------------------|
| | | t-CO ₂ | % | t-CO ₂ | % | |
| 燃料の 使用 | ガソリン | 63 | 3.2 | 60 | 2.8 | ▲ 4 |
| | 灯油 | 521 | 26.2 | 548 | 26.0 | 28 |
| | 軽油 | 86 | 4.3 | 130 | 6.2 | 44 |
| | A重油 | 35 | 1.8 | 35 | 1.7 | 0 |
| | LPG | 60 | 3.0 | 64 | 3.0 | 4 |
| 電気の使用 | | 1,192 | 60.1 | 1,248 | 59.1 | 55 |
| 家庭用機器の使用 | | 0.02 | 0.001 | 0.03 | 0.001 | 0.001 |
| 排水処理/下水の処理 | | 22 | 1.1 | 24 | 1.1 | 2 |
| HFC/公用車 | | 4 | 0.2 | 4 | 0.2 | 0 |
| 合 計 | | 1,983 | 100.0 | 2,112 | 100.0 | 129 |

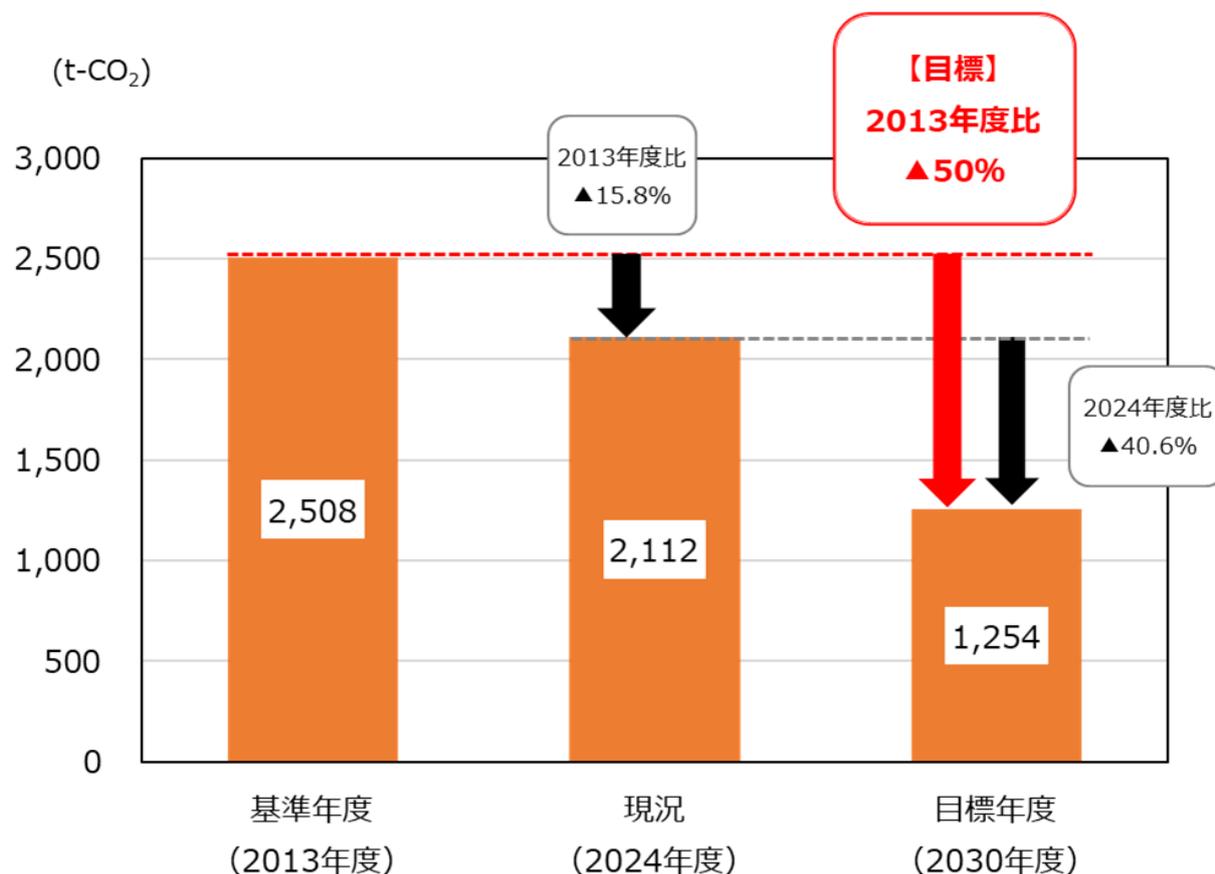
※表示単位未満を四捨五入しているため、計算結果が表中の値と一致しない場合があります。



2. 温室効果ガス排出量の削減目標との比較

温室効果ガス排出量の削減目標は、『2030年度（令和12年度）に基準年度である2013年度（平成25年度）比で50%の削減』としています。

2024年度（令和6年度）の温室効果ガス排出量を削減目標と比較すると、858 t-CO₂多い状況となっており、引き続き削減に努めていく必要があります。



3. 今後の取組み

温室効果ガス排出量のうち、電力が59.1%と最も高くなっています。特に、近年の猛暑により、春から秋にかけてエアコンを使用する期間が長期化していることや、高温により適度な室温を保つことが難しく、設定温度を低くせざるを得ない状況もあることから、今後も電力使用量は増加していくと考えられます。

このため、こまめな消灯や一時的に使用しない場合のパソコンのシャットダウンなど、日頃から節電に努めることや、役場庁舎や老朽化した施設などLED照明が一部しか導入されていない施設についてはLED照明の導入を推進していくことも重要です。なお、2027年末までに蛍光灯の製造・輸出入が終了することからも早期の対応が必要となります。さらには、太陽光発電設備やEV・PHVの導入、エコドライブも有効です。

しかしながら、目標年度までさらに40.6%の温室効果ガス排出量を削減することは非常に難しい状況であることから、町が管理する施設において、温室効果ガス排出量が低い、もしくはゼロである再生可能エネルギーの購入を検討する必要があります。

【参考】エネルギー使用量

| 項目 | 単位 | 2013年度 | 2023年度 | 2024年度 |
|----------|-----|-----------|-----------|-----------|
| ガソリン | L | 18,934 | 26,718 | 25,696 |
| 公用車 | L | 17,288 | 25,453 | 24,680 |
| 公用車以外 | L | 1,645 | 1,265 | 1,016 |
| 灯油 | L | 257,835 | 209,096 | 220,295 |
| 軽油 | L | 70,179 | 24,482 | 50,326 |
| 公用車 | L | 69,010 | 24,200 | 49,717 |
| 公用車以外 | L | 1,169 | 282 | 609 |
| A重油 | L | 20,500 | 13,000 | 13,000 |
| LPG | kg | 9,486 | 20,281 | 21,470 |
| 電気 | kWh | 2,589,413 | 2,413,620 | 2,963,544 |
| 家庭用機器の使用 | | | | |
| LPG | kg | 7 | 5 | 2 |
| 灯油 | L | 1,790 | 1,592 | 1,633 |